

「おいしい」の一言が聞きたくて



お いしそうな匂いが漂う厨房に、テキパキとお弁当の調理作業をこなしていく島内護さんの姿があった。

島内さんは、『ウエルジョブ&キッチンやまだ』に勤務して4年目。オープン当初からのスタッフという。この事業所は、就労継続支援A型という分類で、一般企業への就労が難しい障害のある方が、雇用契約を結んで

働いている。スタッフの中ではベテランの部類で、作業の最終チェックをするなど責任あるポジションを任されている。

職場からは「責任感が強くてまじめ。安心して任せられる」と、その仕事ぶりに太鼓判を押されているが、勤め始めたときは苦勞の連続だったそう。

「慣れない作業で仕事も遅かつ

たし、指導員の方にはいろいろと厳しく教えてもらいました。その経験が、いまの自分に生かされていると思います」と、島内さんは当時を振り返る。しかし、1年目、2年目と経験を積んで仕事を覚え、できることが増えてくると、だんだんとやりがいを感じるようになってきたという。

「以前は苦勞していた作業も、今では簡単にできるようになった。自分の成長を感じることができてうれしい」と、顔をほころばせた。その上で、

「お弁当を作る中で、まだやったことのない作業があります。野菜や果物をカットする仕事なんですけど、それをできるようになりたい」と目を輝かせながら語ってくれた。向上心は旺盛だ。

どんな思いでお弁当を作っていますかと聞いてみた。すると、こんな答えが返ってきた。

「毎日届くのが楽しみになるよ。うなお弁当を作りたい。食べている人の感想は私たちの耳には届いてこないけれど、おいしかったと言ってもらえるように頑張りたいです」

ぜひ、「おいしかった」の一言を届けてあげてください。

しまのうちまもる 島内護さん

ウエルジョブ&キッチンやまだ勤務 / 48歳

ウエルジョブ&キッチンやまだは、就労継続支援A型事業所。就労支援の事業所には、一般企業への就労に向けたステップアップの準備をするという側面もあります。島内さんもここで働きながら経験を積み、いずれは一般企業への就労をと考えているとのこと。穏やかで真面目な人柄を生かして、一歩ずつ頑張ってもらいたいと思います。趣味は音楽鑑賞。最近のポップスから往年の歌謡曲まで幅広く聴いているそうです。料理を家で作ることはほとんどないそうで、「たまに焼き飯ぐらいは作るかな」と笑いました。



かわさき かずふみ 川崎一步さん

共同生活援助事業所白ゆり入所 / 29歳

川崎一步さんは、共同生活援助事業所白ゆりのグループホームに入所し、一般企業に就労して働く傍ら、いろいろなスポーツを楽しんでいます。写真を撮った日も、「今日は夕方から駅伝チームの練習。明日はソフトボールの練習です」と超多忙。3年前からは高知龍馬マラソンに毎年出場しているとのこと、サブスリー（フルマラソンで3時間を切るタイムで完走すること）を目指して日々ランニングにも励んでいるそうです。どんどんと暑さが増す夏の盛り、無理をしすぎないように挑戦を続けてほしいと思います。



チャレンジすることが楽しい!

毎 週金曜日に、宝町にある土佐山田グラウンドで、『障害者支援施設白ゆり』のサッカーチームが練習をしている。メンバーと笑い合いながら汗を流す川崎一步さんは、現在29歳。3年前から同チームでサッカーを始め、現在では障害者サッカーの高知県代表に選ばれるまでに上達した。ポジションはゴールキーパーで、最後の砦としてゴールを守っている。

サッカーを始めてみようと思っただけは、テレビで試合を観たことだという。11人が声を掛け合い、あるいはあうんの呼吸で、連携しながら前へ前へとボールをつないでいく…その姿に魅了された。

「仲間と協力しながら、チームプレーでゴールを守ったり、点を取ったりするところが楽しい」と、一步さんは言う。

6月9日から10日にかけて、全国障害者サッカー大会の中国予選が山口県で開催された。一步さんも高知県代表として出場し、ピッチに立った。広島県の代表チームと対戦し、結果は11対0で完敗。しかし一步さんの顔は晴れやかだった。

「広島県のチームはすごく強くて、もう、こてんぱんでした。



でもレベルが高い人たちのプレーを見るのができて、やる気ももっと湧いてきました」と、力の差に落ち込むことなく、逆にながら楽しい笑顔を見せてくれた。

「高知県の名前を背負って試合をするという経験は大きなプレッシャーでしたが、思い切っただけでした。もっと練習をして、来年も出場できるようにチャレンジしたいです」

そう話す一步さんの目は未来に向けられている。自らの可能性にふたをせず、チャレンジを続けること。そうして、少しずつ未来を押し広げていけば、さまざまな未来を描けるだろう。